

## キリスト教 草の根交流 「いのり☆フエスティブアル2011」 キリスト教葬儀実務者向け講演も

キリスト教の関係団体だけでなく、企業やサークル、個人も含めてキリスト教になんらかの関係をもつ人々が一堂に会するイベント「いのり☆フエスティブアル」が、10月22日、東京都立産業貿易センター・浜松町館で初めて開催。出展者を含め約200人が来場した。

会場では、4つの講演と歌手・沢知

恵さんのライブ、キリスト教関係の書籍や関連グッズの展示、販売などが行われた。なかにはキリスト教関係の雑誌に掲載されている若者向けのイラストの展示などもあり、クリスチャンでない人でも、また若者にも楽しめるイベントとなっていた。

主催は、いのフエス実行委員会（代表・松谷信司氏）季刊誌『Ministry』編集長）。松谷氏は「これまで教会・教派を超えてつながる機会がなかった。またイラストや執筆などに才能ある人たちの発掘したり情報共有する機会もなかった。今後毎年一回、定期的にやっていきたい」と話した。

### 葬儀社の展示ブースと講演

展示ブースの中には、キリスト教専門葬儀社のシャローム式典社（兵庫県西宮市）とディース（名古屋市）が合同出展したブースもあった。「キリスト教葬儀なんでも相談コーナー」を設け、個別相

談にに応じていた。

また、シャローム式典社の高見晴彦氏は講演も行った。タイトルは「百にひとつもある話」。方が「よりもっと身近に起こりうる問題という意味でうまくネーミングしたものだ、一般向けではなく、キリスト教実務者向けに葬儀、遺骨の埋蔵関係の3つの質問の答えをわかりやすく解説した。その中の一つを紹介すると、

「現在、教会には墓がないが、将来的にはもちたいと思っている。それまでの間、信徒の遺骨を教会で預かるのは法的には問題ないのか」

答え「何年にもわたり継続的に、あるいは複数の遺骨を預かるようになる」と問題は生じるが、一時的に預かる程度のことであれば問題ない」

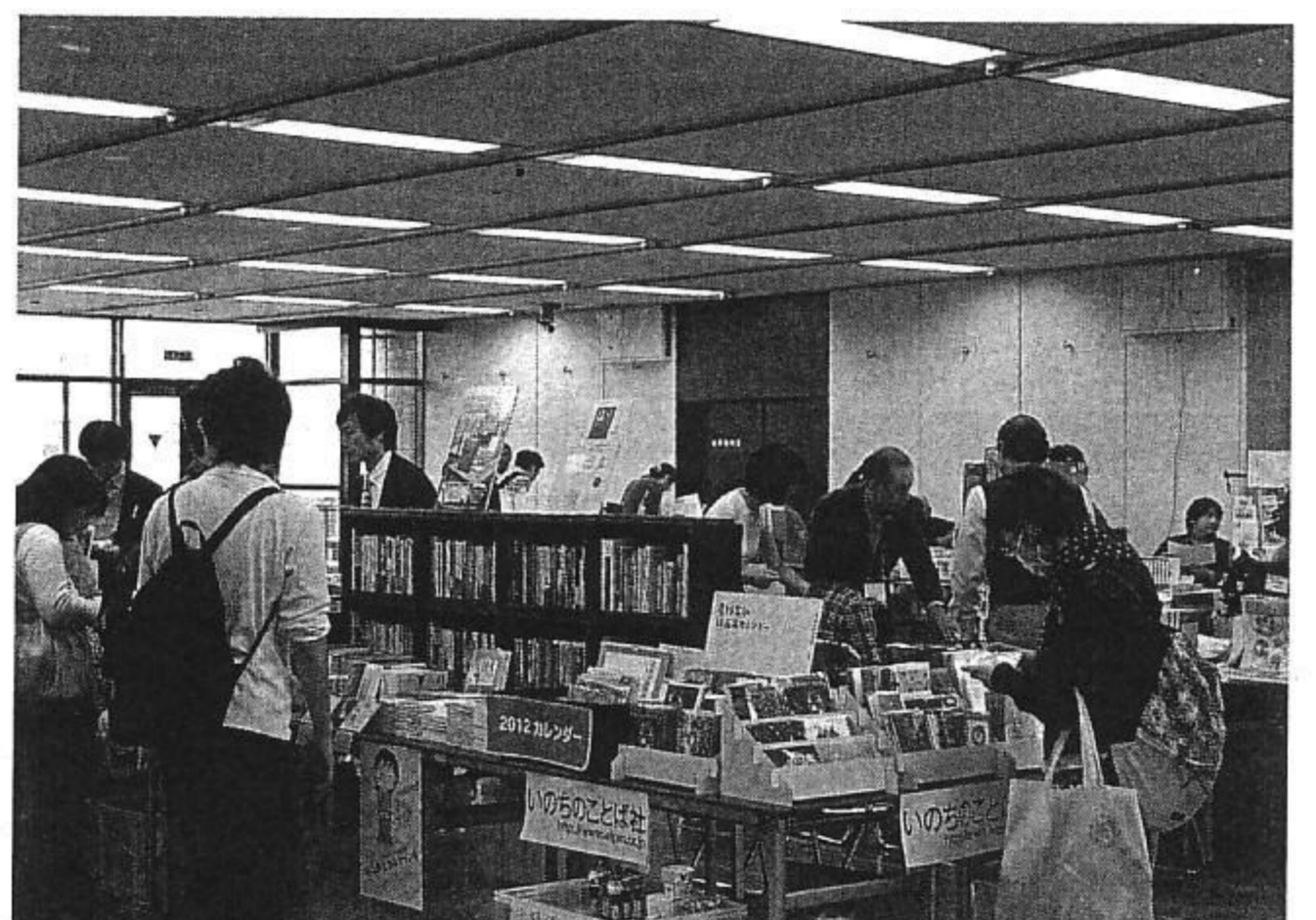
この日の質問と回答はすべて、高見氏のキリスト教葬儀・情報発信サイト「sikiペディア」(<http://www.10.ocn.ne.jp/~shalom/note/>)で公開されている。



「百にひとつもある話」というタイトルで講演するシャローム式典社の高見晴彦氏



シャローム式典社（西宮市）とディース（名古屋市）が合同出展したブース。右はディース社長の岡田守生氏



約20のブースでキリスト教関係の書籍などが展示、販売された